

【平成30年度 第2回港区史編さん委員会 会議録 要旨】

平成31年3月26日(火)

午後6時30分～7時10分

区役所4階 庁議室

【委員】

出席者：井奥成彦委員長 田中秀司副委員長 岩淵令治委員 都倉武之委員
唐木富士子委員 小林靖彦委員 小林元子委員 野尻三重子委員 渡邊仁久委員
小柳津明委員 青木康平委員 有賀謙二委員 星川邦昭委員 北本治委員

欠席者：なし

【事務局】 総務部総務課

【傍聴者】 なし

次 第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 「港区史」の構成について
 - (2) 区史の判型及び装丁について
 - (3) 資料編について
 - (4) 図説 港区の歴史について
- 3 その他
- 4 閉会

配付資料

- 資料1 「港区史」通史編の構成及び構成の決定について
- 資料1-2 「港区史」構成
- 資料1-3 「港区史」通史編 目次案・構成案
- 資料2 区史の判型及び装丁について
- 資料3 資料編について
- 資料3-2 資料編制作のスケジュール(案)
- 資料4 「図説 港区の歴史」について
- 資料4-2 「港区史」・「図説 港区の歴史」構成比較表
- 資料4-3 「図説 港区の歴史」イメージ

・その他、編さん日より創刊号及び港区立郷土歴史館のご案内を配付。

【決定事項】

- ・港区史の構成については、各時代に序章を設けるとともに、章立ては時代区分を基本とし、近世・現代・自然編については概念(テーマ)区分とする。原始～近世・自然編の章・節、近代の章について、原案どおり決定する。ただし、今後の監修段階でタイトルの表現の微調整の可能性はある。
- ・装丁はソフトカバー(函なし)とする。資料編の判型はA5からA4に変更する。
- ・資料編の体制は、通史編の部会を継続し、執筆者が所属する部会の監修者が監修する。
- ・図説版は、通史編へいざなうものとし、写真や図画等を多く取り入れ、港区の歴史を分かりやすく伝えるものとする。博物館展示をイメージした1テーマにつき見開き2面の構成とし、横書き カラーとし、要約の英文を併記する。

議事要旨

1 開会

2 議題

(1) 「港区史」の構成について

資料1、1-2、1-3について説明。

委員：資料1-3の6ページの第4章第3節の第3項と第4項で、人別帳の「帳」が「長」になっているので、書類の修正をお願いする。

事務局：修正する。

委員長：他になければ、港区史の構成については了承ということで良いか。

<異議なし>

議題(1)については、原案のとおり決定する。

(2) 区史の判型及び装丁について

資料2について説明。

委員長：装丁についてはハードカバーのほうがいいのではないかというご意見も前回あったが、改めて区のほうで検討した結果、ソフトカバーにするという提案となった。判型・装丁について、特にご質問・ご意見がなければ、原案どおりということで良いか。

<異議なし>

議題(2)について、原案のとおり決定する。

(3) 資料編について

資料3及び3-2について説明。

委員長：資料編について何かご意見・ご質問はないか。特になければ、了承ということで良いか。

<異議なし>

議題(3)について、原案のとおり決定する。

(4) 図説 港区の歴史について

資料4、4-2、4-3について説明。

委員長：何かご質問・ご意見はないか。イメージなども示されているが、最近の自治体史というのは、昔と違ってカラフルになり、美しく見やすいようなものになってきている。

委員：資料4の2ページ目の刊行概要の(1)仕様⑦の所で、史資料を5点以上取り上げるとあるが、例えば大きな絵図を出す場合には、5点が難しい。執筆者のテーマによっては臨機応変に、史資料の点数が変わることもありうるということをご承知おきいただきたい。カラフルさが失われるというわけではないので、よろしくお願ひしたい。

委員長：その他、何かご意見・ご質問はないか。特になければ、了承ということで良いか。

<異議なし>

議題(4)について、原案のとおり決定する。

3 その他

来年度のスケジュールについて、事務局から説明。

事務局：平成31年度は、7月頃に本委員会を開き、来年度末に刊行する原稿の確定版の確認をしていただく予定である。その後は具体的な印刷等の刊行に入ることになるため、来年度については具体的な内容について確認いただくのと、カバーデザインをどういう形にするのかということも、お諮りする。

なお、最初の刊行となるので、来年3月予定の刊行の時期に合わせて、中間イベントを考えている。その内容についてもご提案し、皆さんのご意見をいただきながら盛り上げていきたい。

また、机上に港区史編さんだよりをお配りした。編さん過程を区民の方に適宜お知らせしていくことが区史編さんの基本方針としてある。区史編さんでどのようなことをやっているのかというのを区民の皆さんに関心を持っていただき、区史が刊行したときには、ぜひ読んでみたいと思っただけのようなものにしたいと考えている。

委員長：来年度は刊行年度ということで、いろいろと委員会でも決めることが多くなるかと思うので、よろしくお願ひしたい。7月の編さん委員会には、決定原稿をお回しする予定である。

委員：監修者会議や委託事業者に、直接話すことではあるかもしれないが、監修者や執筆者から連絡に関しての意見があり、執筆者の一人が辞退をほのめかされている方もいる。できれば、監修者の指示の下、執筆者に原稿依頼等、原稿の細かい指示などは、出させていただきたい。

また、調査について、中世からの要望で実行したいものがまだできていないということなので、改めて監修者から要望があると思うが、対応をお願ひしたい。

委員長：研究者の世界はいろいろと難しい人もいるが、うまく円滑にいくよう、私達も努力していきたい。また、事務局のほうでも努力していただければありがたい。

事務局：了解した。

委員：港区立郷土歴史館が昨年開館し、非常に好評を得ている。編さん委員の皆様の見学については対応するので、事前ご連絡をいただきたい。

資料1-3の通史編「原始」第1章第2節の項目名が、「大学と東京都教育庁の調査」となっているが、回覧されている原稿は「大学と東京都教育委員会による調査」になっており、原稿のほうが正しいと思う。

委員：近世も同じようなことがあるので、気づいた点があれば、ご指摘いただければと思う。

委員長：章・節・項のタイトルについては、中身は変わらないが、タイトルの付け方が変わるということは可能性がある。

他に特になければ、これで終了する。

4 閉会